

中山道

中山道

上州七宿

めぐり

散策図

上州
七宿



中山道とは：

中山道は五街道の一つで、江戸と京都を結ぶ主要街道です。木曾街道ともいわれました。

慶長年間に街道は整備され、上野国（上州、現在の群馬県）には全六十九宿のうち新町・倉賀野・高崎・板鼻・安中・松井田・坂本の七宿がありました。このうち新町宿は承応三年（一六五四）に新たに公認された宿場で、それまで武蔵国（武州、現在の埼玉県・東京都）本庄宿から玉村を経て倉賀野宿へ出る街道筋が本道でした。

中山道は信越・北陸諸国の大名の参勤交代や年貢米の輸送路としての役割を果たして、各宿場には諸大名や武家が宿泊する本陣・脇本陣や商人、旅人などのための旅籠屋等が建ち並び、五十人五十足の御定人馬が常備され、荷物の輸送を行う問屋場がおくれました。

浮世絵師 溪斎英泉や歌川広重により描かれた「木曾街道六十九次」が残されており、往時の様子が偲べれます。

中山道六十九次図



信 濃																		上 野	武 蔵										国	宿場名			距離	最寄り駅					
35 戴原宿	34 奈良井宿	33 賢川宿	32 本山宿	31 洗馬宿	30 塩尻宿	29 下諏訪宿	28 和田宿	27 長久保宿	26 戸田宿	25 望月宿	24 八幡宿	23 塩名田宿	22 岩村田宿	21 小田井宿	20 道分宿	19 沓掛宿	18 軽井沢宿	17 坂本宿	16 松井田宿	15 安中宿	14 坂鼻宿	13 高崎宿	12 倉賀野宿	11 新町宿	10 本庄宿	9 深谷宿	8 熊谷宿	7 鴻巣宿	6 桶川宿	5 上尾宿	4 大宮宿	3 浦和宿	2 板橋宿	1 日本橋	日本橋	新 町 宿	1里18町(5.9km)	新 町 駅	高崎線
																												倉賀野宿	1里19町(6.0km)	倉賀野駅									
																												高 崎 宿	1里30町(7.1km)	高 崎 駅									
山 城																		信 濃										国	板 鼻 宿	30町(3.2km)	群馬八幡駅	信越本線							
																												安 中 宿	2里16町(9.6km)	安 中 駅									
																												松井田宿	2里18町(9.7km)	松井田駅									
																												坂 本 宿		横 川 駅									

宿場名	距離	最寄り駅	
新 町 宿	1里18町(5.9km)	新 町 駅	高崎線
倉賀野宿	1里19町(6.0km)	倉賀野 駅	
高 崎 宿	1里30町(7.1km)	高 崎 駅	
板 鼻 宿	30町(3.2km)	群馬八幡駅	信越本線
安 中 宿	2里16町(9.6km)	安 中 駅	
松 井 田 宿	2里18町(9.7km)	松 井 田 駅	
坂 本 宿		横 川 駅	



名所図画(見どころ)



① 神流川
古戦場跡碑

織田信長の家臣
滝川一益と小田
原北条氏とが、こ
の付近で壮絶な
戦いを繰り広げた。



② 明治天皇新町行在所

明治11年に明治天皇が北陸・東海地域の巡幸を行った際の宿泊施設。



3 於菊稻荷神社

朱色の鳥居が幾重にも連なる。宿場随一の美女於菊の病の際、祈願して快癒し、巫女になったことに因む。



④ 弁財天社

弁財天を祭る小さな祠と、庚申碑、道祖神がならぶ。弁天橋の手前に弁天の芭蕉句碑がある。

高崎宿

倉賀野宿

新町宿



名所図画 (見どころ)



① 倉賀野の追分

中山道と、日光へ向けた例幣使街道との分岐点。閻魔堂と隣りに追分常夜灯、道標がある。



② 脇本陣跡

倉賀野宿の2軒の脇本陣の中の一つ。連子格子や脇がだつのある建物。宿場時代の門も残る。



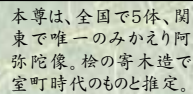
③ 倉賀野神社

倉賀野の総鎮守。拝殿正面の向拝には珍しい「宗光が琴を奏する彫刻」がある。



④ 安楽寺

室町時代の異形板碑が保存されている。本堂裏は、7世紀後半の安楽寺古墳。



松井田宿

安中宿

板鼻宿



名所図画(見どころ)



① 旧碓氷郡役所

群馬県内で唯一残る郡役所の建物。地方自治の歴史を示す貴重な建物として改修、公開されている。

一般公開



② 安中教会

大正8年、新島襄召天30周年を記念して建てられた新島襄記念会堂は、建築史上の意義も高い建物。



③ 旧安中藩奉行役宅・武家長屋

安中城跡に、古文書類を元にして、当時の姿が復元されている。武家長屋4軒続き。

一般公開



④ 新島襄旧宅

新島襄ゆかりの旧宅。遺品や関係書類、写真等を収集して展示する施設となっている。

一般公開



⑤ 原市の杉並木

天保年間には700本を超え、日光杉並木と並び称されていたが、今は、僅かにかつての面影が残る。

軽井沢宿

坂本宿

松井田宿



名所図画(見どころ)



① 横川駅

「峠の釜めし」で有名な駅。駅前にその製造元がある。かつては軽井沢へ向けた碓氷峠越えの拠点。



② 碓氷関所跡

江戸幕府によって設置された関所。関東入国の関門として、箱根と並んで厳しく監視された。



③ 佐藤本陣跡

坂本宿にあった2軒の本陣のうちの一つで、上の本陣と呼ばれた。坂本小学校発祥の地の碑が立つ。



④ 旅籠かぎや跡

坂本宿の面影を残す代表的建物。坂本に移住した高崎藩の納戸役鍵番武井家に因んで名付けた。



⑤ めがね橋

明治25年に完成した煉瓦造り4連アーチ式の鉄道橋。近代化遺産として、我が国初の国重要文化財。

高崎宿



江戸から第十三番目の宿場。高崎城の城下町。本陣・脇本陣は設置されなかった。城下の本町・田町・新町では六斎市（月に6回の市）が開かれ、合わせて18回もの市が立ち、問屋、仲買の大商店が並ぶなど、商業で賑わった。越後へ向けた「三国街道」との分岐にもあたり交通の要衝でもあった。

町並の長さ	22町11間
人 口	3,235人
総 家 数	837軒
本 陣	—
脇 本 陣	—
旅 籠 数	15軒

倉賀野宿



江戸から第十二番目の宿場。利根川水系最上流の河岸があり、牛馬で運ばれてきた上信越の物資が、ここから舟積されて江戸へと運ばれ、水運の要所として栄えた。また、日光東照宮の徳川家康命日の大祭に派遣される朝廷からの勅使が通る「例幣使街道」の分岐点でもあり重要な宿場であった。

町並の長さ	9町16間
人 口	2,032人
総 家 数	297軒
本 陣	1軒
脇 本 陣	2軒
旅 籠 数	32軒

新町宿



江戸から第十一番目の宿場。本庄宿と倉賀野宿間は、元々、玉村の地を経由するルートだったが、加賀藩前田家が新道を開拓し、新しい宿場として整備された。地名は、甲州街道の「新宿」と同様、中山道の中で最も遅く成立した新しい町ということに由来する。

町並の長さ	11町38間
人 口	1,437人
総 家 数	407軒
本 陣	2軒
脇 本 陣	1軒
旅 籠 数	43軒

松井田宿



江戸から第十六番目の宿場。信州各藩から集まる年貢米の中継地として賑わい、「米宿」とも呼ばれていたと言う。西に碓氷関所を控えており、馬子唄に「雨が降りゃこそ松井田泊まり降らじゃこしましょ坂本へ」と唄われたように、日のあるうちに面倒な関所を越しておきたいと、松井田を通過してしまう大名や旅人が多かった。

町並の長さ	9町8間
人 口	1,009人
総 家 数	252軒
本 陣	2軒
脇 本 陣	2軒
旅 籠 数	14軒

安 中 宿



江戸から第十五番目の宿場。安中城の城下町。日本マラソン発祥の地と言われ、毎年、碓氷峠の熊野権現まで走る「侍マラソン」が行われている。これは安政年間に藩士の鍛錬のために始めた「安政の遠足」が起源。同志社の設立者で、キリスト教布教に尽力した新島襄は安中藩士の子。

町並の長さ	3町44間
人 口	348人
総 家 数	64軒
本 陣	1軒
脇 本 陣	2軒
旅 籠 数	17軒

板 鼻 宿



江戸から第十四番目の宿場。旅籠が54軒と、街道中でみてもかなり多かった。「碓氷川の徒歩渡し」があったところで、増水すると川止めになり、多くの旅人が逗留した。幕末、皇女和宮が将軍家茂に降嫁の折に宿泊された本陣書院が、今も残っている。

町並の長さ	10町30間
人 口	1,422人
総 家 数	312軒
本 陣	1軒
脇 本 陣	1軒
旅 籠 数	54軒

坂本宿から碓氷峠へ

坂本宿を過ぎると、いよいよ街道最大の難所の一つと言われる「碓氷峠」へ入り、信州軽井沢宿へ向けて山路の旧道が続いていきます。



坂本宿



江戸から第十七番目の宿場。参勤交代の実施に伴い、碓氷峠の登り口に宿場が必要となったことから、計画的に作られた。道幅が広く、整然と町並みが整備されている。碓氷関所を控え、旅籠が多いのが特徴。ここを過ぎると、いよいよ街道最大の難所の一つである碓氷峠越えとなる。

町並の長さ	6町19間
人 口	732人
総 家 数	162軒
本 陣	2軒
脇 本 陣	2軒
旅 籠 数	40軒

C 少林山 達磨寺



1696年前橋城主が水戸光圀公に依頼して心越禅師を迎え禅の道場として開かれた。張り子の「縁起だるま」で有名な黄檗宗の寺院。

☎027-322-8800

アクセス

関越自動車道「高崎IC」より車で約30分
JR高崎駅よりぐるりんバス少林山線で約20分
JR高崎駅より群馬バス安中市役所行きで約20分、下車 徒歩10分

B 高崎白衣大観音



昭和11年(1936)に実業家井上保三郎氏によって建立された高崎のシンボル。胎内には20体の仏像もあり、拝観できる。

☎(一社)高崎観光協会 ☎027-330-5333

アクセス

関越自動車道「高崎IC」より車で約20分
JR高崎駅よりぐるりんバス観音山線で約20分、
下車 徒歩10分

A 群馬の森



県立近代美術館・歴史博物館のある、森林親水公園。屋外演奏会や各種イベントも行われる。

☎県立近代美術館 ☎027-346-5560 県立歴史博物館 ☎027-346-5522

アクセス

関越自動車道「高崎IC」より車で約15分
JR高崎駅よりタクシーで約20分
JR高崎駅よりぐるりんバスで約20分～40分

E 妙義山

国の名勝で日本百景にも選ばれている。耶馬溪、寒霞溪と並ぶ「日本三奇勝」の一つ。奇岩、怪石の景勝に富んでいる。

☎(一社)富岡市観光協会 ☎0274-62-6001



アクセス

上信越自動車道「松井田妙義IC」より道の駅みょうぎまで車で約5分
JR信越本線松井田駅より道の駅みょうぎまでタクシーで約10分

D 磯部温泉

泉質は、なめらかな炭酸水素塩泉。7軒(※)の温泉旅館と日帰り温泉施設が建つ。温泉記号発祥の地であり、舌切り雀伝説発祥の地としても知られる。



☎磯部観光温泉旅館協同組合 ☎027-385-6310

アクセス

上信越自動車道「松井田妙義IC」より車で約15分
JR信越本線磯部駅より徒歩5分

※令和7年2月現在

周辺の観光スポット

H アプトの道



廢線となっている信越本線横川～軽井沢間は、急勾配の碓氷峠を越えることから、昭和38年まで、アプト式鉄道が用いられていた。その廢線跡の一部を利用し、遊歩道として整備された。めがね橋(P.10)もこの途中にある。

☎安中市観光課 ☎027-382-1111

アクセス

上信越自動車道「松井田妙義IC」より国道18号
経由、車で約7分

JR信越本線横川駅より徒歩3分

G 峠の湯



中山道の中でも難所として知られた碓氷峠。そのふもとに建つ日帰り温泉施設。碓氷線の遺構である「めがね橋」(碓氷第三橋梁)をイメージしたレンガ造りのアーチが特徴です。

☎碓氷峠の森公園交流館「峠の湯」 ☎027-380-4000

アクセス

上信越自動車道「松井田妙義IC」より国道18号経由、
車で約12分

JR信越本線横川駅より徒歩約40分、タクシーで約5分

F 碓氷峠 鉄道文化むら



かつて碓氷峠で活躍した電気機関車をはじめ名車両を展示する、峠と鉄道の歴史館。峠の湯までの間をトロッコ列車も運行している。

☎☎027-380-4163

アクセス

上信越自動車道「松井田妙義IC」より国道18号
経由、車で約7分

JR信越本線横川駅より徒歩3分

関係照会先一覧

群馬県高崎行政県税事務所

☎027-322-4681

高崎市役所観光課

☎027-321-1257

安中市役所観光課

☎027-382-1111

(一社) 高崎観光協会

☎027-330-5333

(一社) 安中市観光機構

☎027-329-6203

磯部観光温泉旅館協同組合

☎027-385-6310

高崎駅観光案内所

☎027-327-9333

周辺の観光スポット

I ぐんま三大梅林

群馬県は古くから梅の産地として全国的に有名。

なかでも西上州には、「ぐんま三大梅林」と言われる安中市の「秋間」、高崎市の「榛名」「箕郷」の3つの梅林が広がっています。

花の見頃の時期には、あたり一面に梅の花が咲き誇り、春の香りに包まれる。

秋間梅林



☎ 安中市観光課
☎027-382-1111

アクセス

上信越自動車道「松井田妙義IC」より車で約20分

JR信越線安中駅より(株)ボルテックスアーク秋間中間行きバスで約20分、徒歩5分

榛名梅林



☎ 高崎市榛名支所産業観光課
☎027-374-5111

アクセス

関越自動車道「高崎IC」より車で約45分

JR高崎駅より群馬バス里見経由室田行きで約50分

箕郷梅林



☎ 高崎市箕郷支所産業課
☎027-371-5111

アクセス

関越自動車道「前橋IC」より車で約30分

JR高崎駅より群馬バス箕郷営業所行きで約30分、下車 タクシー5分

令和7年3月発行

群馬県高崎行政県税事務所

☎027-322-4681